かしわざき

教育センター・育成センター所報

GALLE



メモリー

新しい教育 柏崎からの発信

インターネット(カラー)版は 「柏崎市教育情報支援システム」 を検索し,トップ画面右上の所報 「GALILEI」をクリックすると閲覧 できます。

平成 24 年 3 月号

柏崎市立教育センター 柏崎市青少年育成センター

3月号 CONTENTS



〇 今月の巻頭言

本当に長い長い冬でした

柏崎市立教育センター 柏崎市青少年育成センター

石崎中国ノー・	
所長 小黒 昌司 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1
〇 教育センターたより	
アクセス(教育研究班)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
柏崎の子どもたちの 輝く未来のために スクールオフィス情報 他	
プロジェクト K (教育研究班・科学技術教育) ············· 8	8
新年度準備は進んでいますか? 貸出教材人気ベスト3! 他	
心の窓 (教育相談班)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0
教育相談班 今年度をふりかえって 他	
〇 所員随想「つれづれ」 田原 秀與 田中 俊範 ・・ 1111 1111 1111 1111 1111 1111 111	3
○ 4月の行事予定表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14 1 14 14 14	4
○ 2月の教育センター参加 • 利用状況 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	5

あわただしい年度末を迎えました。 教育センターでは、今年度も「新しい 教育 柏崎からの発信」のスローガン を掲げて、様々な研修や相談業務に取 り組んできました。限られた条件のも とでの事業運営でしたが、それなりの 成果を挙げてきたと自負しています。

教育相談班のカウンセリングルーム 来室相談は、2月末現在で相談件数8 47件、相談人数208人で、昨年同 期と比較すると件数で20%増加、人数で23%減少となっています。

このことから一人当たりの相談回数が増えていることが分かります。 裏を返せば、単発や短期の相談では終わらない難しい事例が増えていることが伺えます。

教育相談の傾向としては、家庭の 養育不全を伴う相談事例や小学生の 発達障害を伴う不登校事例増加の傾 向にあります。それに加え、相談内 容の複雑化と相談事例の重症化が増 えており、相談員一人一人の支援活 動に多大なエネルギーと時間を要し ています。

4月からは、教育センターも10年6ヶ月間お世話になった若葉町から、市内軽井川にある新潟産業大学B号館へ全面移転して新たなスタートを切ります。

今年度の反省や課題を踏まえながら、新しい所でさらなる中身の充実に努めていきます。 1 年間ありがとうございました。(nh)



今月の巻頭言

本当に長い長い冬でした



教育センター・青少年育成センタ 所長 小黒 昌司

「冬来たりなば春遠からじ」と言いますが、大雪に見舞われた冬が終わり、ようや く春がやってきました。日差しの柔らかさを肌に感じると、それだけで子どものよう にワクワクしてしまいます。今年ほど春が待ち遠しかった年は、50数年の人生で初 めてのことです。

また、巷では別れの季節でありますが、当センターもご多分に漏れず去って行くス タッフがおります。1年間、異動したばかりの私を支えてくれた人たちに感謝です。 また、ご承知の方が大勢だと思いますが、現在のセンターの建物とも3月いっぱいで お別れとなります。施設・設備ともに老朽し、そして駐車場も余裕があまりなく、利 用者の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、いざ出て行くとなると多少の寂しさ も感じる今日この頃です。移転先は、自然環境に恵まれた新潟産業大学キャンパス内 にあるB号館。築8年の建物で採光は抜群、駐車場にいたっては、一人で2台乗って きても大丈夫なほど広くなります。3月末は移転準備で落ち着かないセンターですが、 ご容赦のほどよろしくお願いします。

さて、平成23年度のセンター事業は、教職員研修と教育相談を2本の柱として運 営に努めてきましたが、皆様の期待に応えられましたでしょうか。振り返ってみます と、専門研修は137講座を設定させていただき、延べ約2,600人の方が受講さ れました。柏崎の教職員の意欲の表れとして、招へいした専門講師が高く価しており ます。今後はさらに、学力向上、生徒指導、道徳教育、特別支援教育、人権教育・同 和教育、小中一環教育の推進などの一層の充実に向け、各校の創意ある実践に結びつ くような講座の設営を工夫していきたいと思います。研修内容によっては、地域の 方々や保護者、あるいは産業大学や工科大学の学生が参加できるような講座も検討し てみたいと考えております。

一方、教育相談ですが、保護者や教職員、医療機関や福祉の専門機関との連携を強 め、児童生徒一人ひとりの状態やニーズに応じたきめ細かな支援を行ってきました。 今後とも、教育相談体制の充実を図って生きたいと思いますので、どうかよろしくお 願いします。

教育研究班だより

No.124 平成 24 年 3 月 16 日



柏崎市立教育センター 〒945-0833 新潟県柏崎市若葉町 2-31 TEL:0257-23-4591 FAX:0257-23-1168

教師としての専門性と指導力の向上を目指し

お陰様で今年度の研修講座が全て終了しました。2600 名を超えるたいへん多くの皆さんからの参加を得ることができました。柏崎・刈羽教職員の皆さんの研修意欲の高さを改めて実感しています。ありがとうございました。皆さんからお寄せいただいた感想やご意見をもとにしながら、来年度もよりよい研修講座の企画・運営に努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

教科・領域	研修概要	回数	受講数
国語	国語教科指導法 ・ , 大洲小学校研究発表会	3	172
社会科	社会科教材研究,市内文化財巡り	2	75
算数・数学	示範授業講座,授業改善講座,ICT活用,日吉小学校研究発表会	4	177
理科	小学校単元×(7),中学校単元×(4),小・中共通×(11)	22	172
生活科	学校教育と動物飼育,あきのあそび	2	74
音楽	音楽科指導法講座,マーチングバンド講習	2	57
図工・美術	美術教育講座	1	30
保健体育	ニュースポーツ	1	21
技術・家庭	第三中学校研究発表会	1	59
英語	小中連携英語教育,中学校英語教科指導法,英会話教室	3	71
道徳教育	道徳授業づくり ・	2	74
特別活動	学級経営の具体的方法論	1	58
生徒指導	接客マナーと対応スキル,教育相談の基礎基本,子どもの心のケア	6	86
土1化1日号	精神障害を起こす子の対応 , 心をはぐくむ指導と生徒指導の機能 ・		00
同和教育	同和教育現地研修,同和教育の授業のポイント	2	49
進路指導	これからのキャリア教育	1	25
学校事務	学校事務研修 •	2	62
食育	食育授業講座・	2	38
学校保健	性教育,救急法	2	104
特別支援教育	授業づくり,学級経営,聞こえに困難を抱える児童生徒への支援,園に特別支援教育,WISC-,特別支援学級経営の基礎・基本 ~	9	279
学校経営・教育課程	効果的な学校評価と学校・家庭・地域の協働,社会性育成の指導原理と実践事項	2	68
図書館教育	読書のアニマシオン	1	31
教育論文	論文の書き方	1	14
園・学校連携	子ども虐待防止講演会,保幼・小の円滑な接続	4	335
総合的な学習	総合的な学習の時間における授業構成	1	26
情報教育	校務の情報化,情報教育,セキュリティ関連,授業改善等	57	386
学校安全	A E D実技講習 ~	3	72
計		137	2615

柏崎の子どもたちの 輝く未来のために

~ 一歩踏み出そう 具体的アクション ~

当センター主催の「第10回柏崎の教育を語る会」が、去る2月18日に開催されました。休日にもかかわらずに、各方面から120名という大勢の参加者が教育センターに集いました。「子どもたちの輝く未来のために ~一歩踏み出そう 具体的アクション~」をテーマに、子どもたちの成長に向けた具体的アクションや工夫点、園・学校、家庭、地域、行政の連携・協働のあり方について、真剣に考え、熱く語り合い、柏崎市の教育における今後の方向性を探りました。

当日の様子について一部紹介します。

実践発表1 第二中学校区「小中一貫教育」の推進

第二中学校 玉木 暢

第二中学校区では、子どもたちの実態から見える課題と小中9年間で目指す姿を明確にして、それを共有するために推進委員会を組織し、小中合同による研修会を実施している。そして、小中学校と各家庭の指針となる「子ども健やかはぐくみ宣言」を作成し、共通実践を通して成果へと結びつけた。また、比角地域は、コミセンや子ども育成会の活動が大変活発である。地域の事業や行事では、小中学生の役割と活躍の場がきめ細かに設定されており、子どもたちは積極的に参加をしている。互いに交流し合いながら地域愛をはぐくみ、自己肯定感や自己有用感を高めている。小中9年間を通した系統的・継続的な指導と家庭・地域との共通実践、地域のバックアップを通じ、子どもたちの姿となって実を結んでいる。

実践発表2 家庭・地域・学校の協働により進める日吉小学校「3・3・3祭り」日吉小学校 小池尚志

日吉小学校では、学校と保護者と地域の子ども育成会の三者が、一緒に企画・運営をしている「3・3・3祭り」を年に2回実施している。この3・3・3祭りは、「中越沖地震による被災で不自由な生活が続く子どもたちに楽しい思い出を」という日吉の子どもに対する地域住民や教職員の思いがきっかけで特別に計画した「おもしろ教室」がはじまりであった。

今では、子どもの成長を中心に考えながらも、親も地域の大人も学校の先生も一緒に楽しみ、みんなで心豊かになることをねらいとしている。そして、「ねらいの共有と事前検討 役割分担を明確にした三者による主体的な運営 全保護者アンケート

の実施 反省と次回に向けた打合せ」といった活動サイクルを、三者が顔を寄せ合い丁寧に行いながら 充実・発展をさせ、日吉小の伝統行事となっている。実際に、協働を通して大人たち自身が心を動かさ れ、思いの共有や連携を深めたことは、子どもたちの成長の姿にも結びついている。

ワークショップ全体発表 <高柳中・西山中学校区>

【全体発表】

第二中学校区と日吉小学校の実践発表について、学ぶべき点を確認し合いながら話し合いを進めた。 両校とも地域の声や願いを受けとめた取組となっている。そして、かかわる方々がしっかりとつながっていて一緒に取り組んでいる点が素晴らしい。その要因としては、互いに顔を合わせて行う検討会および反省会を丁寧に行っている点、互いの役割分担を明確にしている点など、「共有」の質が高いことが成果に結びついていっているのではないだろうか。 例えば、目的や課題を明確にすることはどの学校でも行っていることである。しかし、学校サイドの考えや思いが、家庭・地域に本当に浸透し共有しているかについては、差が生まれるところだと感じる。この点において、両校の実践は大変参考になった。また、柏崎の教育333運動は、課題解決という対処療法的な捉えではなく、もっと明るく前向きに考えていく必要があるだろう。この視点からも日吉小学校の取組はよい。「子どもの成長を中心に考えながらも、親も地域の大人も学校の先生も一緒に楽しみ、みんなで心豊かになる」ことをねらいとしている点が素晴らしい。実際に協働を通して、大人たちも心を動かされ、思いの共有や連携を深めている様子が素晴らしい。



さて、今後、子どもたちの将来、地域の将来といった先を見通した中でどういう子どもたちを育てていくか、という長いスパンで考えていくことが大切である。また、今はどちらかというとイベント的な内容に終わってしまっている行事があるかもしれない。しかし、その運営方法を見直し、発信を上手に行い、地域に一石を投じることで地域への広がりを実現していきたい。その結果として地域の声をさらに拾い上げていきながらよりよいものを創り上げていければと考える。そして、地域のよさを発見・自覚し、地域を愛する子どもを育てていくことを互いに確認し合い、グループでの話し合いを終了した。

総 括

柏崎市教育委員会 教育長 大 倉 政 洋



今、なぜ園・学校、家庭、地域の協働なのか、一歩踏み出そう具体的アク ↓ションなのか、ということについて話をさせていただきます。

私が子どもの頃、家の前が遊び場で、小さな子どもから大きな子どもまで 大勢が入り乱れて遊んでいました。大きい子どもが小さい子どもの面倒をみ たり、小さい子どもが大きい子どもに憧れを抱いたりしていました。いじめ られることもありましたし、怖いと思うこともありました。そういうことも 含めて、遊びの場は、大切なかかわりの場でありました。また、子どもは、 家事や農作業(薪づくりや雪ほりなど)の仕事を、手伝うという形で自然に 身に付けていきました。祭りなどの集落行事に向けての協同作業も見よう見 まね口伝えで覚え、そんな中で責任と自覚という心構えを自然に身につけて いきました。生きる上で必要な多くのことを自然に身につけることができる

地域社会が、どっしりとありました。子どもから大人になっていく上での必要な知恵は、稲作の生育サイクル、四季の自然サイクルの中で与えられる安定した恵みとしてあったように感じています。

加えて、親の意識の面でも着目すべき点があったと思います。子どもたちは、中学校を卒業すると、3分の1が農業高校の高柳分校にいくか、市内の高校に進学し下宿生活をしました。そして、3分の2が関東方面の会社に就職していきました。向学心のある子どもは、企業内高校に進学をしました。いずれにしても、15歳で家を離れるという現実がありました。親たちは、中学校卒業までにできる限りの教育を身に付けさせたいと、それこそ必死の思いで学校教育を支えてくれました。骨身を惜しまずみんなで学校を応援してくれました。そこには、学校と地域が一体となって子どもを育てる土壌があり、教育コミュニティが存在していたように思います。私が今思うに、教育の原点があったように思われます。

私は、今と比べて昔はよかったと、ただ回顧している訳ではありませんし、このような昔に戻りたいと思っている訳でもありません。教育の役割を考えたとき、あの時代の暮らしぶり、地域の助け合いの姿の中にたくさんあったように思っているのです。私は、いつの時代にあってもみんなが支え合い助け合っていく社会でなければならないと思っていますし、そういう社会を担っていくことのできる子どもを育てていくことが、教育の役割の一つであると考えている訳です。

そこで、考えなければならないことがあるわけです。自然に身についていたこと、自然に行われていたことが、自然にはできなくなった今日の社会においては、連携、協働ということをかなり意図的、計画的、長期の見通しの下でやっていかなければならいということです。 3・3・3 運動の推進も小中一貫

教育の推進も幼保小の連携も、意図的、計画的、長期の見通しの下でぶれずに、目的を明確に持って実践していく中で、子どもたちに生きる力をつけさせ得るのだろうと考えます。

柏崎の教育3・3・3運動は、柏崎の未来を担う子どもたちにとっての人間形成の基盤だと考えます。 基盤がしっかりしていれば、学力、創造性、実践力、思いやりなどの感性が育ちます。そのために、園・学校、地域、保護者の三者が、課題を共有しながら取り組むことが大切だと考えています。核にある省テレビ・省ゲームには、テレビやゲームから子どもも大人も脱却し、それに費やしていた時間を感性、社会性や耐性を育む有意義な時間にしていこうではありませんか、というメッセージが込められています。「生きる時間を大切にし、暮らしをデザインする力」を小中学生が身に付けたなら、これほど心強いものはありません。また、柏崎の教育3・3・3運動の理念と意図するところは、大人も共に、大人が変われば子どもも変わるというところにあります。子どもたちの健全育成、良習慣の形成のために、大人が主体的な行動を起こし、子どもを巻き込んで日々の実践を継続は力なりの精神で取り組んでいくような市民の皆様の発奮も期待するところです。とりわけ、今日お集まりのコミセンの皆さん、PTAの皆さん、青年会議所の皆さん、皆さんが先頭に立ってくださることを願っております。

小中一貫教育柏崎方式については、市民にそのよさが見えるところまで着実に広め高めていくということを目指したいと思っています。柏崎市が力を入れている小中一貫教育は、教育効果が高いものだな、という多くの市民の声を聞きだすことをイメージして、やっていること、やろうとしていることの精度を高めていかなければならないと考えています。今現在、市内に12ある中学校区で、それぞれ義務教育9年間というスパンで子どもを育てていこう、という取組に本腰を入れてきています。教職員の一貫教育に対する意識もかなり高まっています。ただ、取組の成果は、子どもの姿で語らなければなりません。例えば、中学校にうまく適応できないで体調を崩したり、登校を渋ったり、学力不振に陥ったりする子どもの数がかなり少なくなりました。というような成果が力強く語られるようになるのが、これからの目指すところだと考えています。

最後に学校教育実践上の努力点について話をさせていただきます。これは、毎年市内の小中学校教職員全員に配布されるものの表紙であります。「共に歩む地域の学校」というのは、合い言葉だと思ってください。確かな子どもの成長のために、家庭、学校、地域が、それぞれの役割を自覚し、協働しながら子どもたちを見守り育てていくことの大切さを表しています。ここに、お集まりの皆さんからもここに込められた思いを共有していただけたら大変うれしく思います。

さて、教育について私がいろいろな場で話していることは、「教育は希望への歩みを後押しする営み」「学校や幼稚園・保育園が子どもにとって希望の場所、楽しい場所」でなければならないということです。この基底には、子どもへの深い信頼があります。私は、この信条を皆さんにお伝えをし、一緒に子どものたちの幸せのためにという思いで進んでいけたらいいなと思っております。皆さんのお力によって、実り多い柏崎の教育を語る会を作っていただきましたことを厚く御礼を申し上げます。本日はありがとうございました。



■ 柏崎教育情報支援システム情報

コンテンツサーバをリニューアル

教育センターの移転を機に、コンテンツサーバをリニューアルしました。提供している情報に変更はありませんが、左側のメニューを2段に分け、上段には各種資料を提供しているページへのリンクを、下段には別ウインドウ(または別タブ)で開くようなタイプのコンテンツや記録集をまとめました。



■ スクールオフィス情報

3/3 に大規模なパッチ(修正プログラム)の適用が行われました

スクールオフィスの運用では不定期に不具合の修正や使い勝手の向上のためのパッチ(修正プログラム)の適用が行われます。今回は 3/3(土)に作業を行い、多くの点が改善されています。主な改善点を以下に紹介しますが、コンテンツサーバの「スクールオフィス」のページにも詳細な情報を掲載してありますので、併せてご覧ください。

学校基本情報管理

- ・新年度からクラス数が減となる学年に対して、無くなるクラスの在籍者が「未 所属」となってしまう問題がありましたが、仮年度更新で次年度のクラスが存 在しない場合には自動的に生成するようになりました。
- ・学校行事の設定で、月単位の表示画面で公開区分をボタン操作で変更すると行事区分が変わってしま う不具合が修正されました。また、週予定の給食が反映されない不具合も修正されました。
- ・年度更新時に休祝祭日マスタの「春分の日」「秋分の日」が自動計算されるようになりました。
- ・児童生徒名簿に次の項目が追加されました。 「第2氏名カナ」「保護者1第2氏名カナ」「保護者1住所2」「保護者2第2氏名カナ」「保護者2住所2」



グループウェア

- ・学校日誌の印の欄の表示「校長」「教頭」がそれぞれ「印」に変更されました。
- ・動静来校日直で、2013年以降の登録ができない不具合が修正されました。
- ・メールの機能が大きく改善されました。

メール操作のアイコンが変更され、一覧画面で行える機能が増えました。

受信メールの個人フォルダが階層表示できるようになりました。

アドレス帳に初期表示される学校区分がログインしている学校種により変わるようになりました。

メール作成時に、受信メールを表示させようとすると警告が表示されるようになりました。

メールデータのインポート/エクスポート機能が追加されました。

上記以外にも修正点がありますので、詳しくはコンテンツサーバ上のリリースノートをご覧ください。



成績管理

・小学校指導要録の機能追加

基本設定機能の追加、総合的な学習の時間の記録のマスタ引用方式の変更、

総合所見及び指導上参考となる諸事項の入力方式の変更、

指導要録出力項目の変更(特別支援学級名)

・小学校指導要録抄本の機能追加

指導要録抄本機能の変更、基本設定画面の変更、指導要録基本設定画面の変更、

指導要録抄本作成画面の変更、指導要録抄本印刷画面の変更

■ 情報関連講習会のご案内

■ 4 月に実施されるスクールオフィス関連講習会(日程は未確定です)

◆4 月上旬 スクールオフィス新任者講習(管理者向け)

市外からの転入または新任の管理者向けに、スクールオフィスの概要と、年度のスタートにあたって最低 限必要な業務について学習します。

◆4 月上旬 スクールオフィス新任者講習(養護教諭、学籍担当者向け)

市外からの転入または新任の養護教諭および学籍担当者向けに、前後半の2部に分けて実施します。 前半は養護教諭向けで、保健管理システムの概要と、年度のスタートにあたって最低限必要な業務に ついて学習します。

後半は学籍担当者向けで、日々の健康観察の入力手順と保健管理の健康観察マスタとの関連性、出席簿の作成手順について学習します。

◆4 月中旬 スクールオフィス指導要録様式 1 作成講習(学籍担当者向け)

全中学校と小学校で希望する学校の学籍担当者向けに、学校基本情報管理における児童生徒の情報 と指導要録様式1との関連性、指導要録様式1の作成手順について学習します。



(科学技術教育センターだより)

新年度準備はすすんでいますか?

年度当初に準備が必要な教材は?

小学校で使用する教材では、ゆとりを持って準備をすることが必要となる物が多くあり ます。例年のことではありますが、年度当初の単元に必要なもの、また栽培に関するもの など、教材のチェックをしましょう。

3年牛 例

キャベツ苗…モンシロチョウに卵を産ませます。なくならないうちに早めに <u>苗を入手</u>しておきましょう。

ヒマワリ、ホウセンカの種…授業で最初にするのが種まきです。種まきの時 は、水につけるなどして発芽率を高めましょう。

棒温度計、虫めがね、遮光ガラス、方位磁針…壊れているものがないか確認 し、数を補充しておきましょう。方位磁針は、南北が反対になっているも のを直しておくことも必要です。

4年生

ヘチマ、ダイズの種…ヘチマは発芽率が良くない場合があるので、予備を多 めに植えておくことも大切です。

温度計、百葉箱、(自記記録温度計)...棒温度計は、3、5年生でも使います。 割れているものがないか、液切れしているものがないか確認しておきまし ょう。

5 年生

ヘチマ、キュウリの種…インゲン豆はつるなしのものを準備し ます。ヘチマ、キュウリは7月の単元ですが早めに育てておきます。(受粉 の実験に使うので苗を準備しても良いです。)

百葉箱...箱自体だけでなく、中の温度計も壊れていないか確認しておきます。 <mark>メダカ、水草</mark>…メダカは飼育用具が必要です。特に飼育水槽にはメダカを入 れる数日前から水を循環させておくようにしましょう。

<mark>ヨウ素液</mark>…ポビドンヨードを使用したうがい薬を薄めたものでも代用できま す。褐色のビンに入れ、冷暗所で保管しておきます。

種イモ(ジャガイモ)…ホームセンター、種苗店で売っているものを使いま す。(人気のある品種の種イモは早い時期に売り切れてしまうことがありま す)

ロウソク、マッチ、線香…入手は簡単ですが、思った以上に数が必要になる ことがあります。事前に準備し、しっかり管理しておきましょう。

<mark>然焼さじ…ロウソク立てが取れていたり、曲がって使いにくくなっていたり</mark> するものがあります。数も確認しておきましょう。

集気ピン(底あり、底なし)…割れているもの、ヒビの入っているものは使 えません。白い汚れは薄めた塩酸で洗うときれいになります。フタはガラ ス製のものは使えません (無い場合は、木片とアルミ箔で自作しておきま すん

<u>石灰水</u>…専用の容器を決めて、作り置きしておくと便利です。急ぐときは石 灰を混ぜた水をコーヒーフィルターでろ過すると良いでしょう。 <mark>験用気体ポンベ</mark>…酸素、二酸化炭素、窒素×班の数 + 2 ~ 3 本

<mark>気体検知管…酸素</mark>、二酸化炭素用を予備も含めて、少し多めに準備しておき ます。

エタノール...葉の色を脱色するときに使います。飲用毒性のあるメタノール は児童には使用させないようにしてください。

薬品点検、理科準備室の整理整頓も忘れずに!

理科準備室をのぞいて見ましょう。実験器具や希釈した使いかけの薬品が準備室の机の上に出しっぱなしになってはいませんか。調整した水溶液をペットボトルに入れて保管しているようなことはありませんか。

・春休み中に薬品点検を行いましょう。

年度当初の理科主任会でも、年3回の薬品点検をお願いしています。忙しい時期ではありますが、理科準備室の整理とあわせて薬品点検を行い、保有薬品量を把握しましょう。

・ペットボトル等での薬品の保管は極力避けましょう。

ペットボトル等での薬品の保管は極力避けましょう。やむをえない場合は、容器に内容物が何であるのか明記しましょう。食塩や砂糖など、食品をそのまま実験で使う場合には、誤飲誤食を防ぐため、容器を移し変えるか、実験用であることを明記する必要があります。

・実験器具の点検をしましょう。

実験器具は次に使うことを考え、きれいに洗浄して、使いやすく整頓しましょう。 通常の洗浄では、集気ビンなどに付着した白い汚れや、染色液による汚れはなかな か落ちません。理科主任の先生を中心に、作業日を決めて計画的に実施しましょう。

・消耗品の共同購入はいかがですか?

微生物の観察をするときに便利なホールスライドガラスのように、あれば便利だけれど、たくさんは必要ないという物品はありませんか?センターに一声いただければ、センターで購入したものを小分けしてお渡しすることができます。小分けすることで必要経費も少なくてすみます。「これは!」というものがありましたら、お知らせください。

器具の取扱い、薬品の管理などについて、ご不明な点があればいつでもお問い合わせください。

年間の野外観察等の予定を検討しましょう

年間を見通して地層観察会や星空観察会などの日程を検討し、年間計画に仮予定を入れておきましょう。平成22年度から理科教育センター(科学技術教育センター)の所員体制が変わっており、実施日まで準備時間が少ない要請研修についてはお受けしにくくなっています。要請研修を希望される場合には、時間に余裕をもってご連絡ください。

また、だんだん気温が上がり始め、春の草花が顔を出し始める季節が近づいてきました。子どもたちを野外に連れ出す学習は目前です。学校周辺の植物の下調べをしておくことも大切な準備のひとつです。

貸出教材 人気ベスト3!

今年度も、貸出教材を利用いただきありがとうございました。今年度、利用の多かった 教材は、次の3つでした。他にも、「こんな教材があれば・・・!」というものがありましたら、ご相談ください。

○アクリルパイス+ゴム栓セット (短:径5cm×50cm、長:径3cm×180cm)

用途:「大地の変化」堆積実験、「ものの溶けかた」シュリーレン現象観察 など

○実験用カセットコンロ

用途:「水の3つのすがた」水の沸騰、カルメ焼き作り など

○火起こしセット

用途:火起こし体験、エネルギーの変換 など

他にも、科学の祭典で使ったものづくりセットの貸出や書籍(閲覧)等も可能です。 どうぞご利用ください。

教育相談班だより 3月号



No.1 5 1

〒945 - 0833 柏崎市若葉町 2 - 31 TEL 0257(23)4591(代表) FAX 0257(23)4610

教育相談班 今年度をふりかえって

カウンセリングルーム

H23 年度の教育相談班のカウンセリングルーム来室相談は、1 月末現在で相談件数 776 件、相談人数 199 人となっており、昨年同時期の 641 件、254 人と比較して件数で 21%の増加、人数で 22%の減少でした。一人当たりの相談回数が多く、単発や短期の相談では終わらない二次障害を合併したケースや長期化した不登校ケースが増えているためだろうと分析しています。相談内容の内訳では「不登校」に関する相談が最も多く、次いで「発達障害(通常学級)」となっていて、22 年度とほぼ同様の種別件数の傾向です。

相談事例の傾向としては、家庭の養育不全を伴う事例や小学生の発達障害を伴う不登校事例が増加していることが挙げられます。「学校サポート協議会」などの支援会議や医療・福祉の関係機関との合同支援会議に出席・助言するなど、連携のための労力と専門性が相談職員に求められるようになってきています。

<カウンセリングルームの相談内訳(H24年1月末現在)>

(1)年代別面接相談件数【()内は新規人数】

	幼児	小学生	中学生	高校生	教員・一般	合 計
	30	396	342	0	8	776
面接件数	(11)	(105)	(75)	(0)	(8)	(199)

(2)内容別面接相談件数【()内は新規人数】

	就学	通常学級	特支学級	不登校	いじめ	非行	集団	心身の	情緒・精	親子関係	その他	۵≒
	相談	発達障害	発達障害	小豆仅	(100)	7 FF1 J	不適応	不調	神の障害	の問題	ての地	合計
表拉 /// 粉	41	171	40	410	2	4	18	38	15	18	19	776
面接件数	(16)	(58)	(15)	(68)	(2)	(2)	(5)	(13)	(1)	(11)	(8)	(199)

(文責 教育相談係長 小林 東)

ふれあいルーム

4月に、11人の通級登録者で今年度のふれあいルームがスタートしました。昨年度に比べて、小学生の通級生が増え、2月末現在で登録者数(試験通級含め)は20人です。先月の29日(中学3年生通級最終日)には3年生を送る会を開き、2名の中学3年生を送りました。

ふれあいルームでは、体験活動を重視し、年間の活動計画の中に様々な体験活動を取り入れています。体

験活動の事前準備の中で子どもたちが係り分担をするなど、責任を持って仕事を果たすことで自分の存在確認をすることは大切なことです。また、人と接することの苦手な子ども達にとって、ふれあいルームの指導員以外の人たちと接する機会はとても重要です。学校では自信がもてずできないことも、少人数のふれあいルームならやれることがたくさんあります。再登校への意欲が低かった子どもの中には、体験を通しいろいろなことを学び、少しずつ失った自信や存在感を取り戻し、学校復帰(部分復帰を含む)ができるようになってきた子どももいます。

子どもたちが毎日決まった時間での通級ができなかったり、小学2年生から中学3年生までの年齢差が大きく学習指導が難しかったりと指導上の悩みはありますが、今後も学校復帰に向けて、自分に合った目標達成のために「がんばるふれあいルーム」にしていきたいと思います。

【23 年度の体験活動から】

(妙高宿泊体験より)





(陶芸教室より)

(笹だんご作りより)

(茶道体験より)







(文責 ふれあいルーム指導員 渡辺 仁平)

学校訪問相談

平成23年度学校訪問回数は99件でした(平成24年3月8日現在)。主に、定期学校訪問、要請学校訪問、学校サポート協議会を実施してきました。

(1) 定期訪問での相談内容の内訳(小学校25校、中学校12校)

相談	特別支援	生徒指導	特別支援	不登校傾向・	ネグレクト
内容	(通常学級在籍)		(特支学級在籍)	不登校	ポッレット
割合	5 8 %	2 1 %	1 3 %	6 %	2 %

(2) 要請訪問での相談内容の内訳(要請件数 43件:小学校42件、中学校1件)

相談	通常学級における特別支援	不登校傾向・	発達障害	スの供	
内容	学級経営・学習指導	不登校	光连焊古	その他 	
割合	6 4 %	1 9 %	9 %	8 %	

(3) 学校サポート協議会(19件: 小学校8件、中学校11件)

相談内容	不登校	不登校傾向・部分登校	学習不振・別室登校
割合	7 7 %	1 4 %	9 %

ここ数年、通常学級に在籍する特別支援を要する児童・生徒に関する定期・要請相談訪問が半数を超える状況になっています。また、特性に起因する不登校傾向・不登校状態がみられる場合もあります。このような状況の下、学校では、複数の教職員で児童生徒・保護者を支援する体制を整えてきていると感じます。今後も、全ての教職員が発達障害特性の理解を深め、具体的な策をもって児童生徒・保護者に対応することが課題と考えます。

学校訪問相談でも、関係機関と連携を図りながら、学校のニーズにあったより具体的な相談・支援を 行っていきたいと考えております。

(文責 学校訪問相談員 笠木 典子)

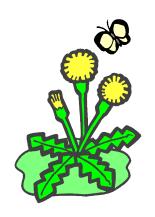
教育電話相談

今年度の電話相談件数は、2月29日現在で15件でした。相談者は、中学生・小学生の保護者が最も多く、子ども本人からの相談はありませんでした。祖父母や父親からの相談もありましたが、1番多かったのは、母親からの相談でした。子どもの問題に対して、「どうしたら良いか・・・」という相談もありましたが、「大人の、私自身の話を聞いて欲しい」という相談も同じくらい寄せられました。子どもさんが不調になった時、周りの大人も、心配したり、不安になったり、気持ちが落ち込んだりします。そういう時に、教育電話相談をご利用いただいたようです。

相談の内容は、発達障害、親子関係のこじれ、心身の問題・不調、不登校、非行、等、様々でした。 相談の中で、「以前から気になっていたんだけど・・・」「機会があれば、誰かに相談しようと思っていた んだけど・・・」というお話が出てくることがあります。普段の生活の中で、少し気になることがあっても 「相談しなくても大丈夫」と思い、自分の中に収めて過ごしてきたのかもしれません。

「こんなこと、相談しても良いのだろうか?」「うまく話せるか分からないし・・・」等、電話をかける前には、色んな不安が浮かんでくるかもしれません。でも、ぜひ教育相談電話(22-4115)にお電話ください。教育センターのスタッフ一同、皆さんのお悩みを一緒に考え、解決の方法を模索していきたいと考えています。

(文責 臨床心理士 矢嶋 郁代)



教育相談班 4月の予定

≪ふれあいルーム≫

6日(金) 通級開始

13日(金) 徒歩遠足

*雨天の場合は18日(水)まで順延

24日(火) 保護者会



「雪」

青少年育成センター 指導員 田原 秀與

1月下旬、柏崎市に大雪警報が発令された。市の防災無線からは再三、除雪作業による事故には十分注意するようにとの放送が聞こえてくる中で、まだこの先雪が降り続くとの天気予報。毎朝晩、除雪車が車庫前に残した雪塊の撤去作業の繰り返しと職場には交通渋滞を予想していつもより早めの出勤が続く中、屋根の雪は積るばかり。

まだ家は大丈夫だろうと想うけど、既に我が家の両隣さんは雪下ろし作業を終わっている。勤めから帰ると、座敷の障子戸の動きが悪いと母から聞き、妻と二人で仕事を休んで大屋根に上ることを決意、たまに登山を楽しんでいる二人には高所恐怖症はないが、"かんじき"と一連はしごを購入して今年は大屋根に登っての雪下ろしだった。

2年前、一人で屋根の雪下ろしをしている最中に、救急車が我が家の3~4軒手前の辺りに停まり、近所のおやじさんが屋根から落ちて救急車で運ばれるという事故があった。他人事とは思えずその時は、雪下ろし作業はまだ途中だったけど、屋根から降りようと2連はしごの位置を確かめながら屋根で操作して引き上げた途端、ロック金具は外れ屋根から降りることが出来なくなった。はしごから手を離さず繰り返し上げ下げしているうちに、なんとか、ロック金具がかかり降りることが出来た。家を新築以来20年以上経つが、暖冬の続いたおかげで、家の建前を含めて大屋根に上ったのは今回で3回目。介護保険料を市に納めるようになった今、将来も降り続く雪にもう何回上ることができるか。地球温暖化でも暖冬を願いたい。

「きょうよう」と「きょういく」

科学技術教育センター

嘱託専任所員 田中 俊範

世間の方々がぐっすりとお休みであろう丑三つ時に、時々目が覚めることがある。近頃、そんな時には、某放送局のラジオを聞くようにしている。(この番組にかかわる雑誌も発売されており、それなりに年齢を重ねた?人が聞く番組であるらしい。)

ある夜、「頭の体操」シリーズで有名な多湖輝さん(若い方にはなじみが薄いかな?)がゲスト出演されていた。(2 夜連続だった。)放送の中で、多湖さんがおっしゃっていたことは、仕事をリタイアした人には「きょうよう」と「きょういく」が大切になってくるということだ。「きょうよう」と言っても「教養」ではなく、「今日(の)用」であり、「きょういく」も「教育」の意味ではなく、「今日行く(ところ)」なのだ。用事があることと行くところがあること(多分、その中では人とのかかわりが必然的に増えて来るのだろうが)は、元気に過ごせることの大きな要件であると言う。そして、そのためには、若い時からいろいるなことに興味を持つことが大切ということだ。のんびりと生きてきた私には、このことに気付き、実行するのが遅すぎた感がある。

さて、「今日用」も「今日行く」も、楽しい用であったり、行く先が楽しい場所であったりと願うのは、仕事真っ盛りの人とて同じではないだろうか。せめて少しでもいいから、動きやすい、分かりやすい、自分の考えを生かせるなどの条件は必要だろう。ちょっと立場を変えてみれば、「教養」と「教育」のある人とは、「今日用」の中や「今日行く」場所で、このようなことを心に止めておいてくれる人かも知れないなどと余計なことを考えてしまう。(我が身を振り返ると、とてもこんなことは言えないことは分かっているが・・・・。)さて、そろそろ自分の「今日用」と「今日行く」を見つけなければ・・・・・・。

______ 平成24年度 月間予定表

4月

柏崎市立教育センター

#####	曜	研修·行事·会議	内部事務▼・出張等	関係事業・施設貸出等
1	日			
2	月		市幹部職員辞令交付式(所長)9:00~ 教育委員会辞令交付式(所長)11:00~ 教育センター辞令交付式(所長)13:00~	
3	火		▼所内会議13:00	
4	水	情・転入者スクールオフィス講習(保健学籍)		
5	木			
6	金	ふ・通級開始日		
. 7∷	土			
8	日			
9	月	相・班会議13:00~		育・高校下校育成活動(〜27日)
10	火	情・転入者スクールオフィス講習(教頭)		
11	水			
12	木			
13	金	ふ・徒歩遠足(天候次第)		
14	土			
15	日			
16	月		教委招集校長会(所長)9:30~12:00	
17	火			
18	水		全県指導主事会議	
19	木			
20	金			
21	土			
22	日			
23	月	相·班会議13:00~	柏刈学校研総会	育・夜間育成活動
24	火	ふ・保護者会	定例教育委員会(所長)13:30~	
25	水			
26	木			
27	金			育·夜間育成活動
28	土			
29	日	昭和の日		
30		振替休日		
		研・教育研究班 科・科学技術教育 村 育・育成センター	■・教育相談班 ふ・ふれあいルーム 【 】は未確定の行事・時間	情·情報教育研修

平成23年度 柏崎市立教育センター参加・利用状況

	研 修 講 座・事 業 名		11月の 利用数	12月の 利用数	1月の 利用数	2月の 利用数	H23年度 利用合計数
	 専門研修講座(情報・科学を除く) *		80	30	00	00	580
	OT SUPPLIES (IISTIX 113 CPS) (7)		502人	97人	0人	0人	1886人
	共催研修、研修講座			00	00	10	80
	7 (120/1121 0/11210)		446人	0人	0人	46人	587人
教	調査研究員会,教科研修員会		00	00	00	10	60
教育研究			人〇	0人	0人	16人	47人
分	教育情報化研修講座 *		30	50	20	30	570
班			9人	96人	4人	22人	470人
771	情報教育主事の要請支援等		100	70	70	90	1040
			28人	18人	21人	409人	1172人
	その他の相談・利用・参加数		00	00	00	00	190
			0人	0人	0人	0人	148人
L	教科書センター利用閲覧数		21人	18人	6人	4人	350人
教育	理科研修講座 *		20	20	20	00	220
日研			13人	16人	57人	0人	259人 18回
研究	学校等の要請研修		20	00	00	10	871人
班			5人 0回	O人 O回	O人 0回	3人	30
• エ Ⅵ	地域の自然研修・観察会		OL	O人			53人
科学技術	 科学教育振興事業(科学の祭典・科学教	(室等)	人008	O人 O人	0人	0人	5996人
技	理科教育の相談・支援	<u> </u>	8件	<u> </u>	<u>0人</u> 6件	3件	93件
偷	理科教材・物品の貸出		14件				82件
教育	(教職員研修の合計)			7件	8件	10件	
	(教験負別1907日間)	************	18人	16人	57人	3人	336人
	カウンセリングルーム来室相談	新規相談件数のべ相談件数	14件 82件	10件	9件	8件	208件
		のアイヤロが仕事が	100	80件 7回	76件 6回	72件 5回	847件 97回
教	電話相談		4件	O件	O件	1件	15件
育	ソーシャルスキルトレーニング		5回 27人	5回 26人	50	O回 O人	36回 194人
相		小学生	8人	8人	<u>24人</u> 8人	8人	66人
談	ふれあいルーム在籍人数	中学生	10人	10人	11人	12人	106人
班	- ふれあいルーム通級日数	1 1 3	20日	16日	16日	21日	189日
		小学生	78人	65人	65人	81人	526人
	ふれあいルーム通級のべ人数	中学生	94人	73人	69人	104人	851人
	ふれあいルーム学校復帰人数(部分復帰る	を含む)	12人	11人	11人	11人	104人
	教育団体,PTA,市民等の利用		124人	140人	186人	154人	2567人
	教育センター事業の参加・利用総	数	2,279	658	537	938	17,319
			I.	<u> </u>	<u> </u>	I.	<u>. </u>

教育センターにおける教職員研修講座	13回	10回	4回	3回	137回
(* 印の合計)	524人	209人	61人	22人	2,615人

ガリレオ・ガリレイはイタリアの天文学者 で近代科学の父と言われ、経験的・実証的方 法を用いる近代科学の端緒を開いた人です。

新しい教育の創造を志向する私たちにも ガリレオ・ガリレイのごときたゆまざる創造 と検証の精神が必要であるという趣旨から 情報紙の名称を「GALILEI」としています。

教育センター・青少年育成センターの情報 とともに、柏崎の教育を広く発信していきま す。

所報「GALILEI」 平成24年3月末日発行

編集・表紙写真 中山 博迪

「ガリレイ」に関する意見・感想は、下記へ

E-mail nakayama@kenet.ed.jp



柏崎市立教育センター TEL(代表) 0257-23-4591 FAX(代表) 0257-23-4610

教育研究班・情報教育 TEL・FAX 23-1168 教育研究班(科学技術教育) TEL20-0212 FAX 20-0205 教育相談班(カウンセリングルーム) TEL 32-3397 ハ (電話相談) TEL 22-4115

E-mail k-center@city.kashiwazaki.niigata.jp

柏崎市青少年育成センター TEL(代表) 0257-20-7601 FAX(代表) 0257-23-4610

〒 945-0833 新潟県柏崎市若葉町 2 31